

5月16日～18日

政友会（浜崎昭臣・平山泰司・鎗光秀孝・船辺修・柴田誠）

## 【秋田県男鹿市】 おがっこネウボラの取り組みについて

### 視察報告

市民福祉部子育て課長からご挨拶をいただき、「おがっこネウボラ」について説明をお聞きしました。男鹿市は秋田県内でも高齢化率及び出生数の差が大きく出生数は年々減少しているとのこと。そこで、母子保健コーディネーターを中心とした、保健師、助産師、臨床心理士などによる支援チームが1つの窓口となり、妊娠・出産・子育てなど、就学時までの子育て世代が直面する困ったこと、心配なことに耳を傾け、相談に乗り、支えていく場所として「ネウボラ」を開設したとのことでした。「おがっこネウボラ」は【安心して子どもを産み育てられる実感が得られる環境をめざす】を掲げ、関連事業も行っていました。その中には地元のお米を「子育て応援米」として年1回支給するなど、数多くの事業を実行されてい



ました。また、乳幼児期から就園(就学)まで、そして就学後も事業を行っておられました。相談件数も増えるなか、出生数は前年比増になったそうです。

### 視察を終えて

孫育ても今と昔の違いもありますが、天草市にも相談できる場所があるので、今以上に周知し、子育て世代の支援とともに、ゆとりをもって育児ができる天草市をと考えさせられました。

5月30日～6月3日

天政会（池田裕之・本田武志・中村三千人・勝木幸生）・脇島義純

## 【北海道音威子府村】 おといねっぷ美術工芸高等学校

### 視察報告

北海道には、町立・村立高校が17校あります。熊本県では高校再編が進み、地元の要望も否応なく生徒数の減少を理由に高校が廃校となっています。天草市内でも「天草東高校」「天草西高校」「河浦高校」と相次いで廃校となりました。天草の人口減少はとどまることなく進み、現在ある高校も、いつ廃校という宣告をされるかわかりません。そこで、村立で高校が運営できるのか、音威子府村立おといねっぷ美術工芸高校を視察研修しました。特に、音威子府村は人口約800人の小さな村です。このような村で、どのように高校を運営しているのか歳出面を伺いました。教員の給与や学校管理費など投資的経費を除く費用は2億5,916万9,000円です。歳入は、地方交付税1億9,572万7,000円、特別交付金4,000万円、授業料や入学検定料など2億4,893万1,000円です。



自己財源(持ち出し)は1,023万7,000円でした。もともと人口800名ですから村の一般会計総予算は21億4,000万円です。教職員数は(寮職員含む)25名です。村では、おといねっぷ美術工芸高校を「まち・ひと・しごと総合戦略」に位置づけし①人口減少を食い止め、新住民の流入を促進すること②小さくても個性的で、魅力的な村づくり③村の発信力を高め、域外との交流を図る④地域ぐるみで、連携による協働体制を構築する一を基本的な考え方としています。高校を中心として雇用の場の確保や人の流れ、若者が夢をもって暮らせる環境づくりと高校を地域の核として活用していました。

### 視察を終えて

天草市においても本渡地区以外は高校のみならず小中学校を地域の核としてどう活用するか提案します。

## 【北海道利尻富士町】 若者定住対策/利尻空港維持対策

### 視察報告

利尻富士町では、漁業後継者を養成することを目的に40歳以下の新規漁業後継者に対し、磯船(70万円相当)又は、報償金(30万円)を贈呈。また免許取得費用助成1/2、家賃補助1万円を超えた額の1/2補助、その他、担い手支援住宅があります。空港は、国の施策による設置で全額道の委託料で運営されていました。

### 視察を終えて

小さな町には町なりに後継者対策はきめ細かに行われています。大きな天草市が取り組むのは難しいと思いますが、担い手支援住宅など検討すべきだと思います。

4月27日～28日

市民クラブ（大塚基生・益田政昭・下田昇一郎）、新風天草（古賀源一郎）

## 【佐賀県 武雄市】 こどもの貧困対策について

武雄市では、日本の子どもの貧困率16.3%(およそ6人に1人が貧困状態)、ひとり親世帯の約半数が貧困状態(54.6%)であることを受け、平成28年4月に「こども教育部」に「こどもの貧困対策課」を設置するとともに、ひとり親家庭の支援を独自に強化し、仕事・居場所・住まいの観点から貧困の連鎖を断ち切るべく自立支援に取り組んでいる。また、同年5月より、庁内に子どもの貧困対策課、福祉課、健康課、生涯学習課及び企画課が参画する「こどもの貧困対策ワーキンググループ」を設置。子どもの貧困対策について検討を行った。検討にあたっては、市で独自に「こどもの生活実態調査」を実施するとともに、子どもの貧困にかかわる関係者を集めた「こどもの貧困対策会議」において意見聴取や、ヒアリング調査を実施し実態調査に努めた。

現在、教育大綱「組む」の下で「未来を担う全ての子どもを主人公に」を掲げ、学校をプラットフォームに、子どもに寄り添う一貫した「伴走型支援」に取り組んでいる。

### 【こどもの貧困対策課 みんなの笑顔係】

職員体制 7名（課長1名、係長1名、係員5名）  
課長・・・こども未来課長が兼務  
係長・・・こどもの貧困対策課1名  
係員・・・教育総務課1名、こども未来課2名  
学校教育課1名、福祉課1名が兼務

5月10日～12日

新風天草（古賀源一郎・松江雅輝・田中茂・中尾友二・濱洲大心）

## 【広島県呉市】 小中一貫教育の取り組みについて

### 調査目的

天草市においても現在、小中一貫教育について検討がなされているので、今後の参考とするために視察を行った。

### 視察報告

呉市では、平成12年度より小中一貫教育への検討、準備が開始され、平成19年度より市内全域において、小中一貫教育が開始された。

平成19年度から22年度の第1ステージ、平成23年度から26年度までの第2ステージでは「中1ギャップの解消と自尊感情の向上」に重点を置いた取り組みがなされ、平成27年度より第3ステージ「主体的な学び」の創造に取り組んでおられた。

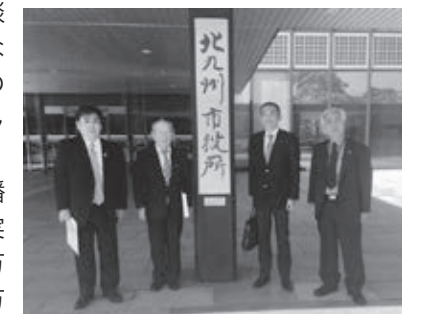
教育の区割りは小学1年～4年までを前期、小学5年～中



## 【福岡県 北九州市】 公営による子ども食堂の取り組みについて

### 視察報告

北九州市では、子ども食堂の開設や必要性について市民や議会からの問い合わせの増加に伴い、民間における子ども食堂の開設の推進と、食の安全性についての知識の醸成などを目的に、地域や教育委員会、保健所と協議しながら平成28年9月からモデル的に公営で子ども食堂の運営を実施。ここで得られた経験やノウハウを民間団体に伝承し、相談対応や助言を行いながら、子ども食堂の開設や運営を支援していく予定である。現在小倉北区と八幡東区の2カ所で実施。予算額は250万円×2カ所=500万円。



### 視察を終えて

人口減少の大きな歯止めともなる子育て支援については天草市でも重要課題である。今回訪れた両市においては独自の視点から積極的な取り組みがなされており視察も多いとのこと。天草市においても子育て世代に求められる環境整備、移り住んでいただけるような天草市の実現に向けて今後の議員活動に活かしていきたい。

学1年までを中期、中2・3年を後期とされていた。小学校、中学校の教職員の交流、乗り入れ授業も行われているが、1つの中学校区に1つの小学校ばかりではなく、3つの小学校がある地区も存在する。現在、市内には中学校26校、小学校36校であるとのことであった。

小中一貫教育を行った結果、メリットとして全国平均、県平均を上回る学力アップにつながったこと、中1ギャップと言われる不登校問題が減少したこと、小中合同行事などに取り組み、子ども達の絆が深まったことなどがあげられた。

また、デメリットとしては、教職員は県の職員であるため、新たに呉市に勤務される場合、その都度研修が必要になること、乗り入れ授業を行うにあたり、教員の業務は忙しくなることなどがある。

### 視察を終えて

天草市においては、呉市とは条件が違うので検討課題が多いと感じる。広域にわたって、小中学校が存在するので、小中一貫教育が可能な地域とそうでない地域がでてくる。この研修を参考に今後の議員活動に活かしていきたいと考える。